

The education of staff and users for the proper handling and care of archival materials: a RAMP study with guidelines (文書館の職員と利用者のための史料取扱いの作法)

Helen Ford 著

バリ ユネスコ発行 1991. 10

36 p 30 cm

“ちゅーりっぷほいくえんには、やくそくが70ぐらいもあります。いちばんたいせつなのは、[なげないこと。ぶたないこと。ひっかかないこと。] … (中略) みんな、「なあんだ、かんたんなことばかり！」…なのに、しげるは、きょう1日で17かいもやくそくをわすれ…せんせいに…にらまれました。” (中川李子『童話いやいやえん』より)

文書館では、この保育園と同じでたくさんの規則がある。史料の保存と利用を今だけでなく100年先、1000年先までも確保するための規則だ。それはみんな、ありふれた、簡単なことだけれども、忘れてしまいやすい。

『文書館の職員と利用者のための史料取扱いの作法—RAMP・研究とガイドライン』という本は、ユネスコ総合情報計画の報告書のひとつである。史料の保存と利用について、人の動作に注目して見直すというのがこの報

告書の特徴となっている。史料を残すのも、消費してしまうのも、結局は文書館の職員と利用者であるというのが、著者ヘレン・フォードの考えの基盤となっている。これは当たり前だが改めて考え直してみるべきポイントだろう。

たとえば、史料の形態により配慮すべき事項が異なることは、経験の中で体得している。しかし、改めてそれを書き連ね、論じ、解説するという作業をあえて行うのは決して簡単なことではない。更に配慮すべきをすべて配慮できているかどうか、簡単なことなのに忘れがちではないか……。

史料保存を史料に焦点を絞って考察を加えた文献は少なからず存在している。だが、同じことをヒトの動作の観点で論じ、そのあるべき姿をガイドラインとして示した本書からは、日常生活のすみずみまで見直さなさいという英国PRO保存部長のメッセージが伝わってくるようだ。基本単語と保存専門用語で書かれた平易な文章は、邦語の難解な論文よりずっと読みやすい。職員と利用者のトレーニングを論じた8頁、英語で読んで下さい。

小川千代子